

## 3.2 特記事項(中間評価)への対応とその結果

### 3.2.1 研究者間の有機的連携の強化

本拠点では、プログラム開始時から教育プログラム・研究プロジェクトの推進とその進捗状況の評価に関し、事業推進担当者全員が参加する全体ミーティング(週 1 回開催)により、研究者間の密接な連携と情報の共有を図ってきた。これにより、専攻に属する各研究領域間や、超精密科学研究センターとの間での研究連携が促進され、従来にないナノスケール製造技術や先端デバイスの開発に成功した。中間評価を受け、研究者間の有機的な連携のさらなる緊密化を図るため、本拠点では「一国一城」といわれる研究室の壁を完全に取り除き、若手研究者間の自由な交流を促した。その結果、異なる研究室に所属する著者による共著論文の数が増加し、その発表比率は全体の 61%にも達した。したがって、総合力が必要な物づくりにおいて、研究者間の有機的連携が大幅に進んだと言える。

また、共同で実施する研究プログラムの進展に沿って、より有機的な研究者間の連携を可能とするため、7 名の教員が研究領域間を移動した。さらに、各プロジェクト研究のフェーズに応じ、その教育と研究を担う研究領域の研究者が兼務により超精密科学研究センターの運営に適宜加わり、センター機能の充実と研究者間の有機的連携の強化を図った。